

技術検討会における指摘事項について

○令和５年度 補助事業評価技術検討会（再評価）の質疑応答

凡例 資料１：蕪栗沼地区（農業競争力強化農地整備事業）

資料２：飯坂地区（農村地域防災減災事業）

補助事業評価技術検討会（令和５年12月13日（水））

No.	発言者	資料 番号	ページ	項目	質問等	回 答
	－蕪栗沼地区－					
1	森委員長	1-1	5	総費用算定	総費用算定の計算式の記載に誤りがあると思われる。	数式を「⑥＝①＋②＋③＋④－⑤」に修正した。
2	高橋委員	1-1	13	年効果額	水稻において更新に係る事業なかりせば生産量が減となっているがこれはどう理解すればよいか。	事業が実施されなければ、立地条件の悪化により現況の水稻単収が陸稲並みに落ち込み、生産量が減少するという状況を設定しているものである。
	－飯坂地区－					
1	森委員長	2-1	6	総費用算定	総費用算定の計算式の記載に誤りがあると思われる。	数式を「⑥＝①＋②＋③＋④－⑤」に修正した。
2	藤科委員	2-2	3	環境配慮	旧水路をそのまま残し、環境に配慮しているとのことだが、実態としてうまくいっているのか。水は実際に流れているのか。ただ残しただけでは意味が無いのでは。	旧水路に水が流れていることを確認している。また、令和４年度に旧水路にホタルが生息していることを地元住民が確認していることから、対策は成功していると考えている。

No.	発言者	資料 番号	ペー ジ	項目	質問等	回 答
3	近藤委員	2-2	3	環境配慮 等	飯坂ため池下流水路について、整備前の方が生態系に配慮されているものと見受けられる。自然で理想的な流れとなっており、断面も洪水時にも対応できたように思われ、瀬と深みとが多様な流れが確保されている。整備後の方が通水断面が小さく、直線の水路であるから下流にて溢水等が生じたりといった危惧も出てくる。そのような評価はされているか。	学識経験者の助言に基づき、環境配慮区間を設けるとともに、現況水路を存置することで生態系に配慮しているもの。（新設水路は別路線に造成。） 水理の観点からは、整備後と整備前では水路の表面の滑らかさ（粗度係数）が大きく異なり（整備前：0.100、整備後：0.014）、通水断面が小さくなっても溢水が生じないことを確認している。 また、水路下流部では、山地部からの流入水も見込んだ通水断面を確保しており、安全に流下できることを確認している。
4	近藤委員	2-2	3	環境配慮 等	上記と関連し、同じ場所を撮影した写真で対比すること。 対比は、P 3 の写真それぞれの場所の整備前後の写真を見せてほしい。	同一の場所で撮影した資料を整理している。（別添 3-1 参照）
5	近藤委員	2-1	2	環境配慮	ため池と下流の水路を含めて生態系を確認しているとのことだが、実施前と後で生態系が守られているというデータはあるか。	令和 4 年度に旧水路にホタルが生息していることを地元住民が確認している。なお、主要工事完了後の令和 6 年度に学識経験者指導の下、生態確認調査を行う予定である。
6	近藤委員	2-1	2	環境配慮	環境配慮の観点から伺いたい。地元の生態系に詳しい方の意見は取り入れているのか。もしくは環境配慮対策に対する意見は無かったか。すごく良い環境が残されていたところなので、そのような意見があったら教えてほしい。	学識経験者（植物担当・動物担当・昆虫担当）、地元住民及び維持管理者等で構成する「飯坂地区環境配慮協議会」で対策を検討している。 学識経験者からは、「良い環境であるため、保全を考えながら事業計画をお願いしたい」「水路法線を山側からそらすことで、今の環境を守ることが出来る」「林の中の水路を保全（存置）することで、ホタル・カワニナ・ミズゴケの生育環境を保全することが可能」との助言をいただいている。